

カナダ金融政策（2024年4月）

利下げ開始が近づく

2024年4月11日

追加のインフレ指標を確認し、次回6月会合で利下げに踏み切るか

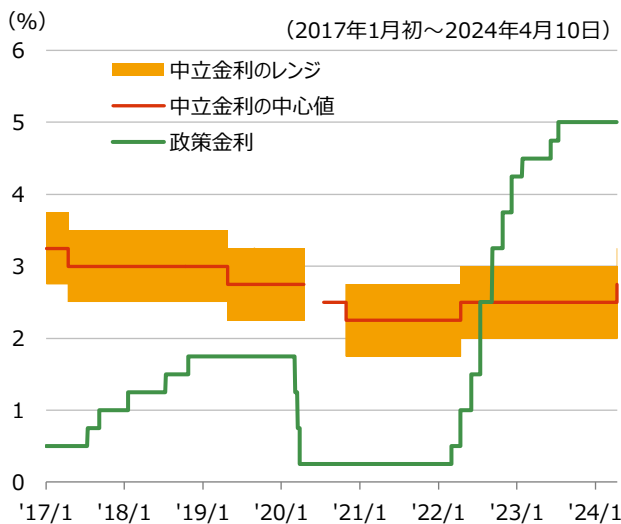
カナダ銀行（中央銀行）は4月10日（現地、以下同様）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を5.00%に据え置くことを決定しました。据え置きは6会合連続です。

CPI（消費者物価指数）のうち、基調的なインフレ動向を示す加重中央値とトリム平均値の3カ月前比年率がいずれも2%付近まで急低下するなど、足元でインフレ沈静化に向けた進展が見られます。声明文では「この低下傾向が続く証拠を探す」と記し、利下げの前により多くのデータを確認する意向が示されました。他方、マクレム総裁は次回会合（6月5日）での利下げを「可能性の範囲内」と表現しており、それまでに発表される3月と4月分のCPIが上振れなければ、同会合での利下げ開始が濃厚になるでしょう。

景気は年初から持ち直し気味で、特殊要因も重なり1-3月期は前期比年率2.8%の高成長が予想されています。しかし、短期的な潜在成長率の高まりなどを背景に需給ギャップの推計値は前期からほぼ横ばいで明確な供給超過の領域にあるため、国内要因によるインフレ再燃の可能性は低そうです。一方、米国の利下げ後ずれ観測によるカナダ・ドル安や原油高などの外部要因が物価を押し上げるリスクには要注意です。

なお、今回は中立金利の推計値が従来の2~3%から2.25~3.25%に上方修正されました。足元の政策金利は中立金利を著しく上回っているため、当面の利下げにはあまり影響しませんが、利下げの到達点を探る局面では重要になってくるため、更なる上方修正の可能性があるか注視していく必要があります。

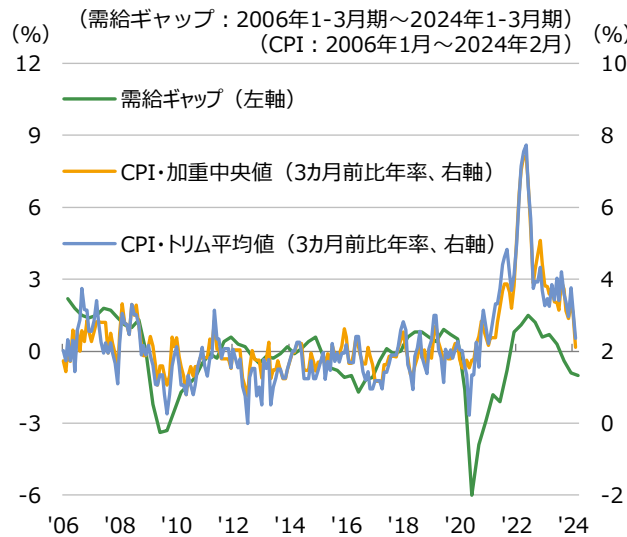
カナダ：中立金利と政策金利



※コロナ禍では中立金利の公表が一時的に停止されていた

(出所) カナダ銀行、ブルームバーグ

カナダ：需給ギャップとコアCPI



※直近の需給ギャップは推計レンジ▲0.5%～▲1.5%の中心値

(出所) カナダ銀行、カナダ統計局より大和アセット作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。